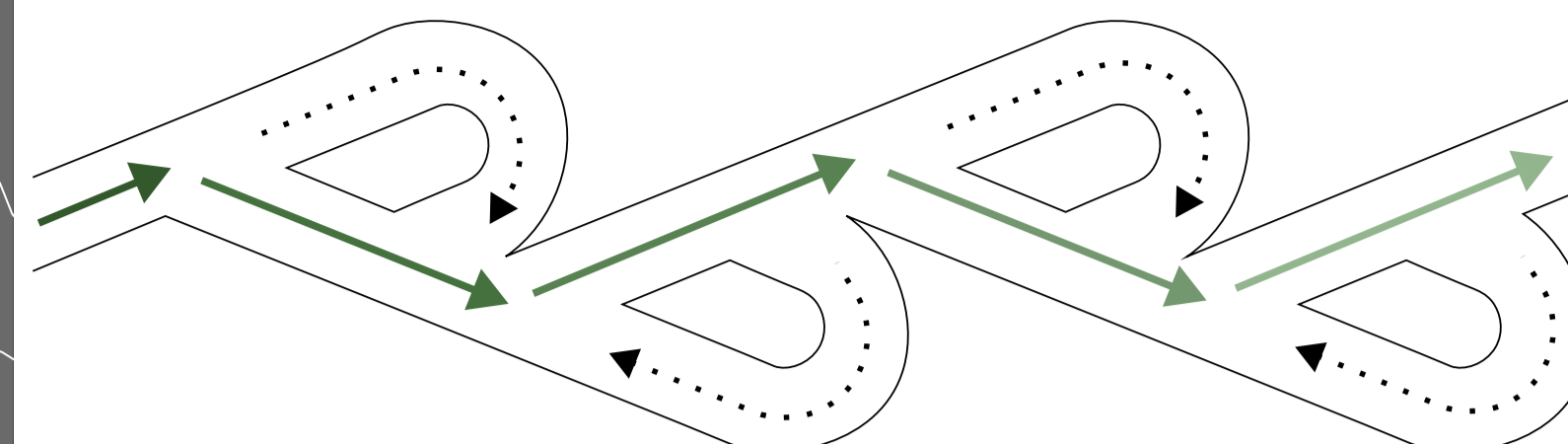
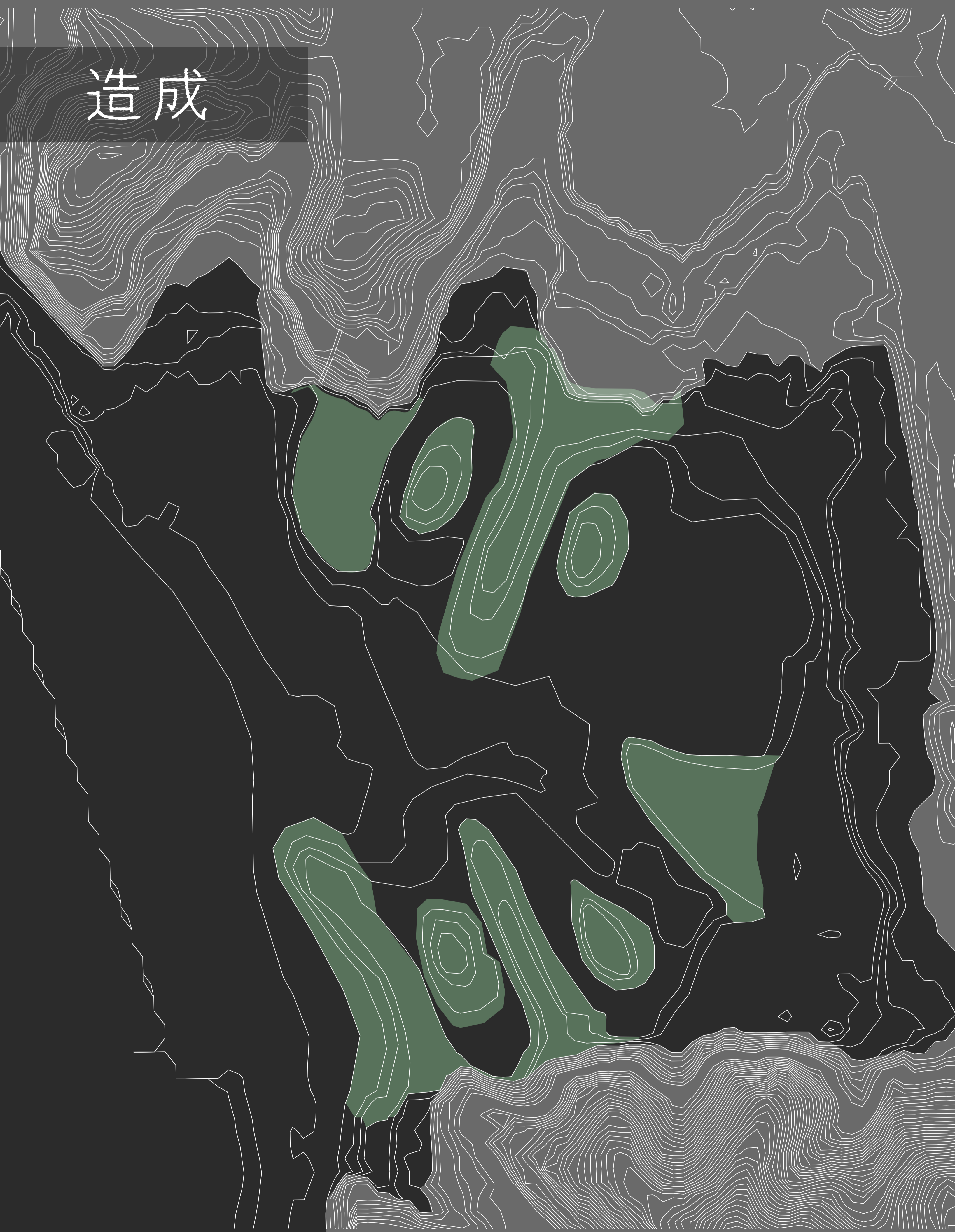
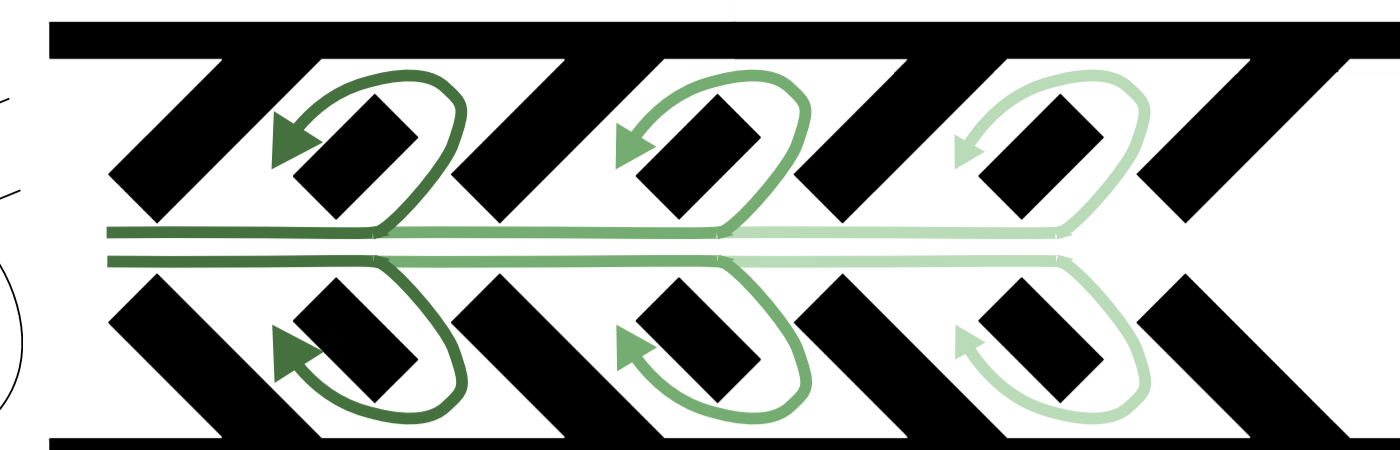


# 造成



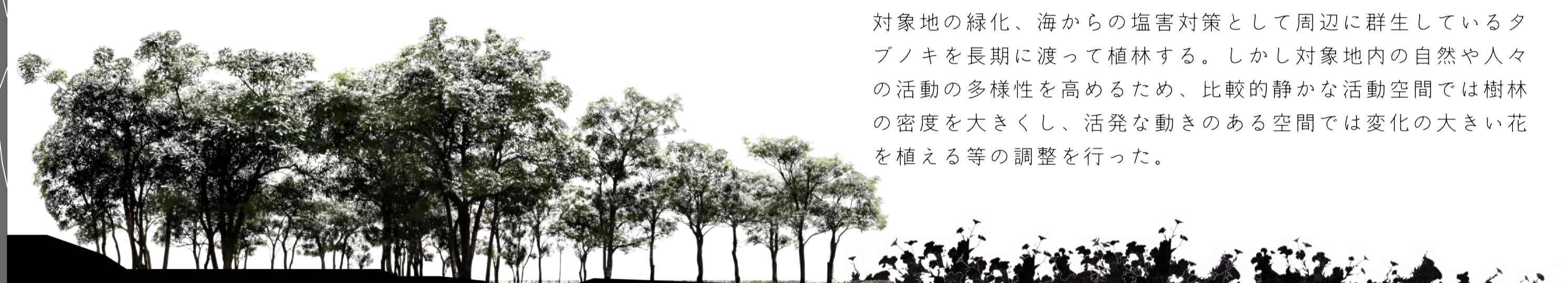
テスラバルブ



テスラバルブの過程の図形

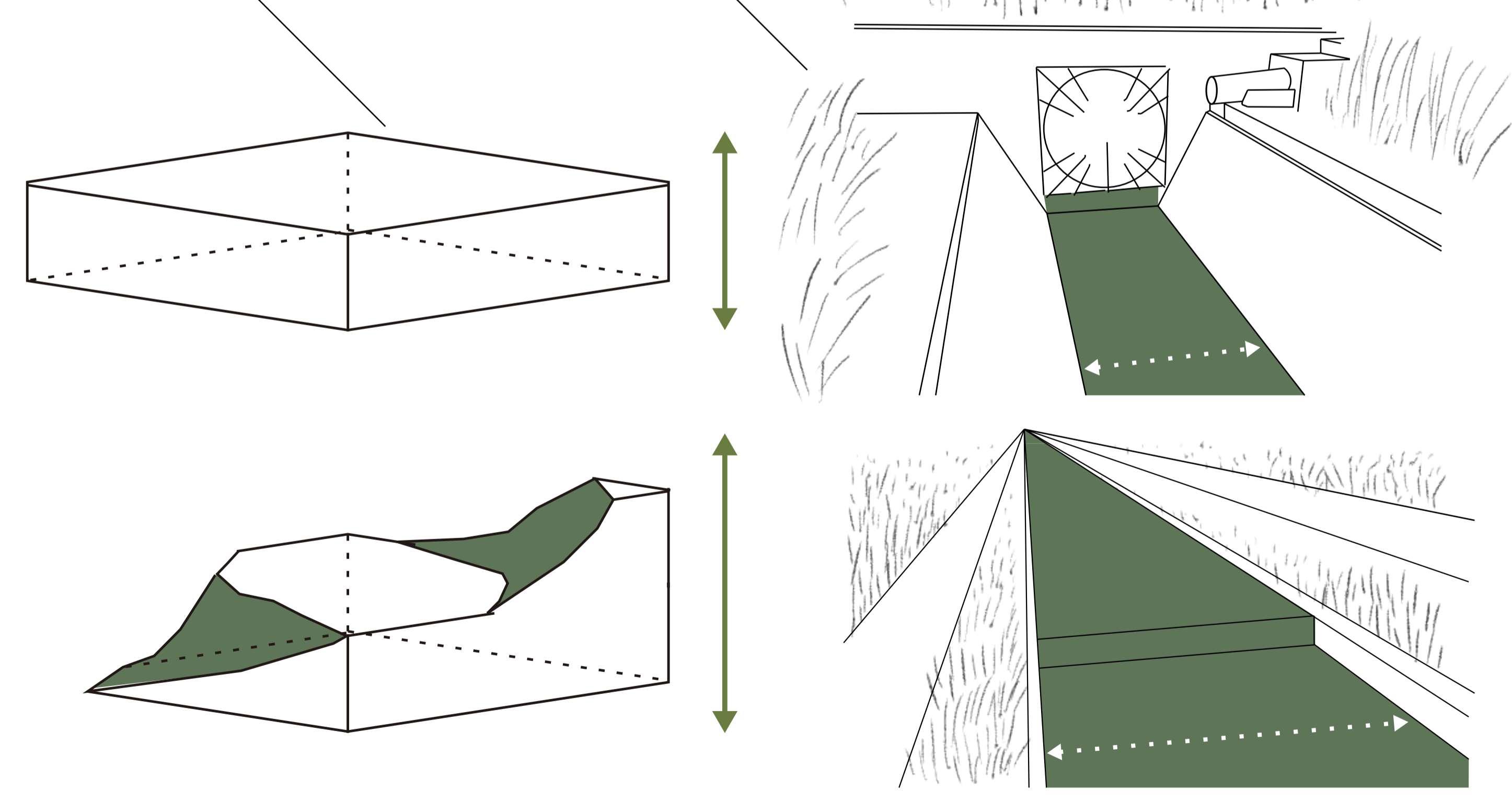
今ある堤防の代わる造成を考えるにあたり、対象地が海との繋がりを保ちつつ、万が一津波がやってきたときに被害を最小限にとどめる可能性があると考えたものがテスラバルブである。

100年前、アメリカの発明家のニコラ・テスラが発案したもので水などの液体の流れを制御できる形状なのだという。傘状の水路を違い違いに連ねたようなもので、片方の水が水路によってUターンし流れを相殺して弱める仕組みになっている。その形状に至るまでの段階の中で対象地の本来ある形状への造成の影響が最小に抑えられると考え、参考しつつ3Dプリンターで敷地模型を作成し左図のような造成を考えました。また、水の勢いがまず恐れがある部分の等高線の操作を行った。



対象地の緑化、海からの塩害対策として周辺に群生しているタブノキを長期に渡って植林する。しかし対象地内の自然や人々の活動の多様性を高めるため、比較的静かな活動空間では樹林の密度を大きくし、活発な動きのある空間では変化の大きい花を植える等の調整を行った。

切土・盛土 明快な水路



左の図面の波のような形状を造成する場合に本来の対象地の地形にかかる負担を最小限に抑え、また浸水被害を抑えるため海に近い部分の土壌や丘の西側の土壌を切土し東側の地形への盛り土と丘の造成に再利用することで海に近い低地の中でも高低差がつき、より高所の住宅に住むことの安全性を高めることを意図している。

対象地にある水路はるか山奥にある砂防ダムから流れてくる水の道である。周辺の生き物に対しても魅力的な場所の基盤になるようにコンクリートで覆われ我々からも見えにくくなっていった深い水路から大きく横幅をとった比較的底が浅くなり水の流れがよく眺められる水路を計画した。